

## [5] 支部だより

## 北海道支部

(H8, H10) 本 田 肇

北海道では、今(2022)年6月9日に1日の新型コロナウイルス感染症新規感染者数が1,000人未満となり、落ち着きを見せていましたが、第7波の拡大により、わずか1か月後の7月13日から再び新規感染者数が1,000人を超えるようになってしまい、7月29日には、1日の感染者数が過去最大の6,594人を記録する等、急速に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しています。

このため、北海道支部では、例年初夏に支部会合を開催してきましたが、このような感染状況を踏まえ、川合紀章支部長(S54・S56)とも相談の上、2020年、2021年に続き、2022年の支部会合の開催を当面見合わせています。支部の皆さんとは3年お会いできていない状況です。

さて、私は、昨(2021)年7月に栗山健作さん(H12・H14)が異動したことにより、山田菊子さん(H1・H3)とともに幹事を担当させていただいております。

2015年から北海道支部に異動してきて、初夏の風物詩だった支部会合には、ほぼ参加していましたが、幹事は初めてとなります。これまでの貢献不足を反省し、微力ながら山田さんを補佐し、幹事を務めてまいりたいと思います。

さて、コロナ禍ではありましたが、6月25日から7月24日まで北海道恵庭市を中心に、第39回全国都市緑化北海道フェア「ガーデンフェスタ北海道2022」が開催され、恵庭市花の拠点「はなふる」が会場になり、30万人以上の方に来場いただき、ガーデンや花々を見ていただき成功裏に終わりました。このイベントの中心的行事として、7月13日には全国都市緑化祭が開催されました。私も参列する機会に恵まれ、ご臨席いただいた佳子内親王殿下を拝見することができました。更に、式典での殿下のお言葉の中で、会場前の国道で地元の建設会社の職員の方がボランティアで毎日のように世話をしてくださっている「ひまわり」にも触れていただき、自分事のように感動してしまいました。

第6波以降、新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきて、政府は、6月10日から団体旅行に限定し観光客の入国制限を緩和し7月17日には、およそ2年4か月ぶりにソウルから国際線が到着し、完成後ほぼ使われていなかった国際線ターミナルがようやく使われるようになりました。この原稿が発刊される頃にはどのようなになっているのでしょうか。

北海道は、観光が大きな産業の一つであり、道外の皆様にも、北海道にお越しいただけることを楽しみにお待ちしております。

## 東 北 支 部

(H14, H16) 高 木 猛 志

東北地方でも新型コロナ感染が収束しない状況ではありますが、正常化に向けた動きが徐々に見えてきております。制約はあるもの、3年ぶりに青森ねぶた祭、仙台七夕まつりが開催され、秋田竿燈まつりとあわせて、東北3大祭が開催され、繁華街にも人が見られるなど、活気も見られています。5月に弘前さくら祭りを拝見しましたが、新型コロナ前よりも人数は少なく、感染対策が徹底されているものの、多くの人で賑わっておりました。

また、リモートでの会議、講義やコミュニケーションが一般化し、対面との併用等、リモートと対面の長所を活かした働き方・暮らし改革が見られています。小職も、関西在住の両親や兄弟、関東在住の兄弟とリモートでの雑談にて活用し、恩恵を受けています。

また、最近では、脱炭素に向けた風力発電等の再エネ開発にて、自然豊かな東北地方が注目される機会があります。エネルギーを含めた資材価格高騰、電力の需給逼迫等の現状の大きな問題を解決していく上で、再エネ開発も有効な分野の一つと考えられます。支部活動とは直接の関係はございませんが、東北地方の活性化につなげていけたらと感じております。また、11年前の東日本大震災から復興も進み、建設業界・官庁の方々も東北地域から他地域に移られている現状からも、再エネ開発が東北支部の増員のきっかけになることも期待しております。

さて、至近1年の東北支部の活動状況ですが、新型コロナ感染の再拡大にて機を掴みきれず、例年実施の東北支部懇親会を今年も実施できずにおりました。

そこで、東北支部活動の今後について、元幹事の(株)トインクス営業部担当部長 加藤慎太郎氏(H04)と種々意見交換を実施しました。併せて、感染が落ち着いたら直ぐに勘を取り戻せるよう、対策を十分講じたうえで、プチ東北支部交流会も開催しました。東北支部懇親会の早期再開に向け志を新たにしたところでした(加藤さん(H04)、高木(H14, H16)撮影時以外はマスク着用のうえパーテーションにて離隔対応)。





## 東京支部

(S61) 岩 住 知 一

東京支部の常任幹事を拝命しております。昭和61年卒業の岩住でございます。本年の総会で宮田支部長の代理として、支部報告をさせて頂きました。



昨年は、7月3日に熱海の豪雨による土石流災害により26名の方が亡くなられ、また8月には九州、中国、北陸で集中豪雨があり、27水系67河川で氾濫しました。近年、地球の温暖化により、災害が多発するようになってきています。

そのような中、東京ではコロナで開催が危ぶまれています。

したが、オリンピックが無事開催され、史上最多の27個の金メダルを含む58個のメダルを獲得した事は記憶に新しい所です。

オリンピック終了後も渋谷や虎ノ門、東京大手町等大型再開発が多くのある場所で行われており、首都高の日本橋区間の地下化や羽田空港アクセス線の建設等、建設需要が急減することも無く、業界は繁忙を極めていきます。

2024年に適用される、残業時間の上限45時間を達成するためには、生産性の向上やICT化、自動化がより一層求められている所です。

さて、東京支部ではコロナ禍の影響で、3年間総会が開かれていませんでしたが、6月6日に学生会館において着座形式で、総勢135名が参加して総会を開催しました。

総会は大石支部長(43, 45)のご挨拶のあと、高橋良和先生(H6, H8)から教室の現況報告があり、安部常任幹事(57, 59)から会計報告がありました。また2022年度支部役員として、

支 部 長 (新) 宮田 年耕 (48, 50) (一財) 道路産業開発  
機構 理事長

代表幹事 (新) 吉田 英信 (53, 55) 鹿島道路(株) 代表取締役  
社 長

常任幹事 安部 吉生 (57, 59) 大成建設 常務執行役  
員 土木営業本部副本  
部 長

常任幹事 (新) 岩住 知一 (61) 鹿島建設 土木管理本部  
プロジェクト推進部 プロ  
ジェクト推進部長

常任幹事 (新) 杉山 和久 (62, H1) 大林組 執行役員 土  
木本部副本部長

常任幹事 吉岡 大蔵 (H7, H9) 国土交通省水管理・  
国土保全局 河川計  
画事業調整官

のご承認を頂き、宮田新支部長のご挨拶がありました。

その後、急遽出張された参議院議員の足立敏之先生(52, 54)の応援として、木下謙司熊谷組(株)顧問(52, 54)からプロモーションビデオの紹介と選挙応援の依頼がありました。

続いて、五堂仁美国土強靱化推進室次長(59, 61)、衆議院議員の井林たつり先生(H12, H14)、乗京正弘飛鳥建設(株)代表取締役社長(53, 55)のご挨拶の後、陣内孝雄先輩(31, 33)の万歳三唱で無事閉会しました。

今年は残念ながら懇親会はありませんでしたが、是非とも来年6月5日の総会では懇親会、合同二次会を開催できるよう幹事団も頑張りたいと考えております。

本学は今年125周年を迎えますが、創立当初からある土木工学科の卒業生の存在は、他の学部、学科に比べて秀でており、その組織力は大きな力となります。京土会事務局のご努力とご尽力に改めて、心より御礼申し上げます。

最後になりましたが、京土会会員の皆様の益々のご活躍、ご発展を祈念いたしまして、挨拶に代えさせていただきます。

ありがとうございました。

## 千葉支部

(H4, H6) 辰見 夕一

千葉支部は、千葉県に在住もしくは勤務される京土会OBの方を対象に、これまで年1回の懇親会を開催して親交を深めてきております。この3年間は残念ながらコロナ禍の影響で懇親会の開催を見送ってきておりますが、今回はちょうど第30回目の節目の会となる予定ですので、いつも以上に多くの方にご参加頂いて盛大な会が出来る日が来ることを願うばかりです。さて、今回は千葉県在住の田近久和さんに千葉県の魅力について執筆頂きましたのでご紹介させていただきます。

(H8, H10) 田近 久和

千葉の部署に異動したのが11年余前のことで、それから千葉支部にお邪魔し、千葉支部懇親会（毎年3月開催）に参加しています。その会合もここ数年来開催が難しく、今はコロナ禍が明けるのを待っているところです。会食しながら諸先輩や御同輩の近況をお聞きし、最後には琵琶湖周航の歌を老若問わず互いに肩を組み歌うという流れで進みます。歌われる湖の情景は、学生時代に行った場所や、往時の記憶を引き出してくれて、良い刺激をいただいております。

学生時代に近い“海”は琵琶湖でした。ここ千葉にいると実際の海を近くに感じます。日々の移動の際の景色に、港から響く汽笛の音や漂う潮のかおりに、球団の名前に海があり日常に触れる事物に海が埋め込まれていると感じます。ここ千葉では海に親しむ方法も多いのですが、東京湾側（内房）、太平洋側（外房）、それぞれに違ったものがあります。

東京湾側は人口の多い場所でもあり、最近では千葉市の稲毛の浜が白い砂浜になりウッドデッキも設置され、親水環境の整備も進んでいます。潮干狩りができるところも多く6月ごろまでにぎわっています。自然も多く残り、習志野の谷津干潟や木更津の小櫃川河口の干潟等では、干潮時には干潟ならではの生物に会えます。穴から出入りする蟹や貝、そして小さな水たまりとなった海に取り残された小魚、それを狙う野鳥も多くいる場所で、天気が良ければ富士山が、また、近くには近代的なホテルや、アクアラインの橋梁部の偉容が遠望でき、自然と人工物とのギャップが感じられます。

太平洋側では、銚子、九十九里や勝浦などではその漁港ならではの食事が提供され楽しめます。また、広がる海と碎ける波、それに乗り水面を滑り出すサーフボードを見ていると小生はそれに乗れるわけではないですが開放的な気分になります。どうしても鉄道網が粗い部分もあり、ドライブになることも多いのですが、道中に道の駅も多く、そ

れぞれにその土地ならではの特色があり、農産物やお土産の物販でにぎわっています。最近の道の駅では、従来よく見られた地域の特産物市に加え、温泉施設やドッグパーク、そして一部では高齢者住宅が併設されるなど、それぞれの特色とともに発展を遂げており、新たな発見が期待できます。

2022年は少しずつイベントが復活してきております。著名なミュージックフェスも幕張で、蘇我で複数回開催されました。木更津では、ちばアクアラインマラソンも4年ぶり（通常は2年ごとで、2020年は中止）に開催が予定されています。まだまだ油断できない状況の中、関係者のご対応は並々ならぬものと思います。社会経済が安全に活性化できればと祈念するばかりです。

皆様には是非千葉にお越しいただき、堪能いただけると幸いです。また、千葉支部の方々には、近々、懇親会にて再びお会いし、一緒に合唱できる日を楽しみにしています。

## 新潟支部

(H20, H22) 佐藤 朋弥

新潟支部の近況をご報告いたします。

新潟支部では例年3月中旬に支部総会を開催していましたが、令和2年および3年に続き本年も新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて総会中止となりました。足許8月では感染拡大第7波により新潟も大いに翻弄されておりますが、全国的にも有名な長岡花火は有料観覧席の増設など感染対策を徹底したうえで開催決定するなど、コロナ禍における過去との違いも見えてきております。来年こそは新潟支部に於いても総会・情報交換会が開催できますことを願っております。

今年の新潟の話題といえば、何といても「佐渡島の金山」のユネスコ世界遺産への推薦決定でしょうか。紆余曲折はありましたが、関係各所のご支援・ご理解をいただき、今年2月1日の政府閣議において推薦が決定されました。残念ながらユネスコから推薦書不備を指摘されたことにより、世界遺産登録は早くても2024年となり、関係者は落胆しておりますが、裏を返せば混雑する前に観光するチャンスでもあります。

相川金銀山は16世紀末から20世紀末まで国内最大の金産出量を誇った鉱山で、古い時代の遺跡が破壊されずに残っていることから、金生産技術の変遷をたどることができます。見学コースは江戸時代・明治時代の2つに分かれており、江戸時代コースは地元修学旅行生の定番コースでした。中では機械仕掛けの人形が時折思い出したかのように動いては「なじみの女に会いてえなあ」などと旧時代的な発言を繰り返すものですから、子供心にも恐怖を覚えた記憶がありますが、大人になってから改めて見ると江戸時代の人海戦術の壮絶さと昭和レトロ感を味わえる趣深いコースでし

た。一転、お隣の明治時代コースは平成元年まで現役で稼働していた鉱山をそのまま展示しており、質実剛健な近代産業遺跡といった佇まいで、その坑道を抜けた先にひっそりと「道遊の割戸」への道が案内されています。金脈を追い求めて露天掘りを進めた結果、山がぱっくりと2つに割れてしまったかようになっており、近くでその異形の空洞を見つめていると人類の欲深さを想わずにはいられない・・・、かもしれません。

他にも新潟市の格安航空会社トキエアが佐渡空港発着の新潟、東京線の就航を23年以降に計画しており、また、経営難に陥っていた佐渡汽船のスポンサーとしてみちのりホールディングスが名乗りを上げ、経営再建および地域活性化に向けて歩み出すなど、佐渡島を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。是非この機会に、新潟まで足を運んでいただければ幸いです。

最後となりますが、京土会の皆様の皆様のご活躍をお祈り申し上げ、新潟支部の近況報告とさせていただきます。

## 東海支部

(H7, H9) 澤木 夕紀彦

東海支部は、主に東海4県（岐阜、静岡、愛知、三重）に勤務地や住所のある同窓生を対象とした同窓会です。総会の開催は新型コロナウイルス感染症の影響により2020年度以降見合わせております。全学部対象の愛知京大会も延期されています。

東海地方におけるインフラの整備状況等を紹介いたします。名古屋市周辺の高速度道路ネットワークは2021年5月に全てが開通しています。三重・岐阜・愛知にまたがり愛知西部を大きく取り囲む東海環状自動車道(延長約153km)は、2019年度までに100km超の区間が開通しており、全線開通に向け、事業が進んでいます。新東名高速道路は、2022年4

月に神奈川県内の13kmが開通し残る静岡・新御殿場ICから神奈川県内までの25kmの工事が進められています。

愛知県長久手市にある愛・地球博記念公園（2005年国際博覧会の会場）では、アニメ映画で有名なスタジオジブリ作品の世界観が表現される「ジブリパーク」が、2022年11月に一部開業しました。第1期の開業エリアには、映画「となりのトトロ」「耳をすませば」「千と千尋の神隠し」などの世界に関連した内容があり、現在は日時指定の予約制で運営されています。

土木学会で2021年度選奨された土木遺産のうち、愛知県犬山市にある彩雲橋を紹介します。この橋は、国宝犬山城の東側で木曾川へ流れ込む郷瀬川に、鉄道レールを用いて1929（昭和4）年に架けられた、2連のアーチ橋（長さ25m）です。この犬山では、旧名古屋鉄道（社名を名岐鉄道に変更後、1935年、別の鉄道会社を合併し現在の名古屋鉄道となる）が大正時代から観光開発を進めており、1925（大正14）年には犬山城東側に犬山遊園地を開園、そこに1926（大正15）年、旅館彩雲閣がつくられました。彩雲橋は旅館の近くに位置し名前が似ており、また鉄道レールが用いられており、どのように計画され建設されたのか興味深いところです。遊園地機能は昭和30年代に名鉄線の東側、現在の日本モンキーパークに移り、跡地に名鉄犬山ホテルができました。そのホテルが建て替えられ、2022年3月にホテルインディゴ犬山有楽苑が開業しています。

この近くには、2000年まで鉄道道路併用橋であった鉄道専用の犬山橋（1925年竣工、3連ワーレントラス橋、長さ223m）など歴史ある鉄道構造物も残っています。2022年は日本の鉄道開業150年ですが、鉄道関連の土木構造物が百年近く使われているのは素晴らしいことと思います。

写真は、木曾川右岸・岐阜県各務原市 鶯沼からの風景で、右が犬山城、左が新しいホテル、中央が彩雲橋、そして鶯沼の観覧船です。写真上の橋は小さいですが、近接写真は



土木学会サイト等を確認いただければ幸いです（なお、京土会ウェブサイトでは写真がカラーで掲載されます）。木曾川のこの辺りは、2022年大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の時代に起きた承久の乱（1221年）における幕府軍と朝廷軍の初期の戦いがあった所で、この上流にある可見市土田付近が最初の戦場となり、下流の各務原市前渡付近で幕府大軍が西へ渡河し朝廷側が敗走したとされています。

コロナが早く終息し、同窓会など人々の交流が活発になることを願ひまして、報告を終わります。

## 長野支部

支部長（S61）青木謙通

長野支部は、周囲を東京、新潟、東海、北陸の4つの支部に囲まれ、長野県に在住、在勤する会員により構成される会員数10名程度の小規模な支部です。

長野県では、四半世紀を経過しましたが、1998年（平成10年）に開催された長野冬季オリンピックを契機に、北陸新幹線や上信越道・長野道などの高速交通網が暫定的に整備をされました。約6年前、2015年（平成27年）3月には北陸新幹線が長野から金沢まで延伸され、延伸区間内で県内唯一である飯山駅が開業をしました。また、リニア中央新幹線は、2027年の開業を目標に、建設工事が進められています。県南部の飯田市には、新幹線駅が設置される予定で、開業後を見据えたまちづくりの取り組みが活発となり、地域の発展に期待が寄せられています。

一方、3年前の2019年10月には、東日本台風により長野市の穂保地区で堤防より越水、結果的に決壊し、千曲川から人家に水が押し寄せ、衝撃的な映像が放映されました。全国より復興のボランティア、募金などのご支援をいただき、復旧・復興への力強い支援となりました。現在は、災害復旧工事は概ね終了しましたが、国土交通省を主体として千曲川緊急治水プロジェクトを展開し、住民の安全な暮らしの確保を目指しています。

支部の活動についてです。本年も昨年と同様、ウェブを活用してのオンラインでの総会を会員4名参加のもと、7月22日に開催をしました。京都大学からは遠方より高橋良和教授にオンラインでご参加をいただき、専科の近況報告を中心にご講演をいただきました。参加者が少なかったこともあり、参加者すべてが高橋教授と懇談をすることができました。特に、今回の参加者については、全員が地方庁勤務であったため、地方庁における技術者確保の状況やそれに向けてのご提案を直接お伺いすることができ、大変有意義な機会でありました。

今後の支部の活動についてです。基本的には、会員の希望により、活動を展開しようと考えています。しかしながら、支部活動による役員負担などを考えると、周辺支部との合併など支部のあり方を考えていく時期になっていると感じ

ておるところです。

結びに、京土会並びに会員の皆様方のご活躍とご発展を祈念し、長野支部の近況報告といたします。

紙面を借りて恐縮ですが、長野県に在勤、在住する京土会員で支部活動のご案内をお届けできていない方は、お手数ですが下記までご一報をお願いいたします。

長野支部連絡先（勤務先）

〒380-8570 長野市南長野幅下692-2  
長野県 建設部 道路建設課 青木 謙通  
電話 026-235-7304  
Mail: aoki-kanemichi@pref.nagano.lg.jp

## 北陸支部

（H4、R2経営）市森友明

北陸支部は、富山県、石川県、福井県の3県にまたがる地域であり、2022年10月現在で100名の会員を有しています。

### 1. 北陸支部第36回支部総会

北陸支部総会は、例年夏頃に開催していましたが、新型コロナウイルス感染状況により2021年度の第35回は書面決議といたしました。2022年度の第36回総会は、年に1回の交流の場ということもありますので、幹部の皆様との協議の結果、感染対策を確実に講じ、2022年10月1日（土）富山県富山市のとやま自遊館にて開催いたしました。富山県から9名、石川県から7名、福井県から5名の計21名の会員にご参加いただきました。

はじめに富山大学 学長補佐・特別研究教授、京都大学名誉教授 中川大 支部長（S54、S56）のご挨拶をいただき、その後、開催県を代表し、富山県生コンクリート工業組合専務理事 岡崎 光信 様（S55）から開会のご挨拶をいただきました。総会では、各議案が順調に審議・承認されました。



2022年10月1日  
総会でご挨拶される中川大 支部長（S54、S56）

### 2. 講演会、懇親会

総会に引き続き講演会が行われ、「北陸の公共交通政策 ― これまでの先進性と次に向けての展望―」と題して富山大

学 学長補佐・特別研究教授，京都大学名誉教授 中川 大 様 (S54, S56) にご講演いただきました。



2022年10月1日 講演会の様子

北陸は公共交通の分野，とりわけ鉄道と軌道の分野で非常に先進的な取組をしており，他の地域からもそのように見られていることから，その取組事例のご紹介と，世界でかなり進んでいる鉄道ダイヤに関する研究についてお話いただきました。

はじめに，北陸の公共交通政策の先進事例として，万葉線（富山県高岡市・射水市），富山ライトレール，えちぜん鉄道などの事例を挙げ，この20年間程度の日本の地方圏における先進的な鉄軌道政策の多くを北陸から発信してきたことをご紹介いただきました。また，北陸の公共交通のさらなる進化にむけて，①パターンダイヤ，②ランデブーコンセプト，③Taktfahrplan（タクトダイヤ）などダイヤを良くしていくことが必要であるとお話いただきました。最後に利便性向上による地方鉄道の再生戦略について，採算をとることを前提とすると，サービス低下・利用者減・赤字拡大（ネガティブスパイラル）となり，市民利益（社会的便益）の最大化を目指す，適切な公共負担・サービス向上・赤字縮小の可能性となるとお話いただきました。中川様，ありがとうございます。

講演会終了後，懇親会では，前支部長の泉野地区社会福祉協議会会長，金沢大学名誉教授 北浦 勝 様 (S42, S44, S47) に開会のご挨拶，富山県を代表し，富山県建設技術センター 副理事長 江幡 光博 様 (S60) の乾杯で開宴となりました。宴会中は2年ぶりの開催ということで，恒例の各自の近況報告もあり，様々な話題で盛り上がりました。

最後に次回開催の富山県を代表し，前田建設工業(株) 関西支店 福井営業所 技術顧問 橋本 栄治 様 (S52) の発声にて中締めとなりました。

### 3. おわりに

2015年3月に北陸新幹線が開業し7年余りが経過しました。東京とのアクセスは各段に向上しているだけに，毎回申し上げますが，2024年春 敦賀延伸，大阪までの新幹線開通が待ち遠しい限りです。今回は富山での開催となりましたが，最近富山駅周辺では多くの出張者，観光客が見られ，

コロナ前の活況が戻ってきています。また駅周辺へのホテルや商業施設の整備も進んでおり，新幹線開業後も民間投資が旺盛です。福井駅周辺も新幹線開業を踏まえ，活発な民間投資が行われていることから，これら高速鉄道の充実により，京都大学がある関西圏との交流増加が望まれるところです。そのような時期を見据えて，我々北陸支部会員はそれぞれの立場で切磋琢磨していきたいと考えております。

最後になりますが，北陸支部は100名規模にまで会員数が増えました。石川県，富山県，福井県の3県に京都大学全体の同窓会も立ち上がり，京都大学関係者の交流も益々活性化しております。京土会の皆様，是非ともこの北陸に足をお運びいただければ幸いです。今後とも北陸支部をよろしく願います。



2022年10月1日 支部総会出席者の皆様

### 京 滋 支 部

支部長 (S60) 壺 内 賢 一

本年度支部長をおおせつかっております京都府危機管理監の壺内です。

京滋支部の支部長・事務局は，京都大学，京都市，京都府，立命館大学の輪番で担当することが慣例となっておりますが，コロナ禍による支部活動の中止・縮小等もあり，一昨年度，昨年度に引き続き今年度も，私ども京都府が受け持つております。

支部の行事につきましては，支部総会・懇親会とゴルフ大会を恒例活動としておりますが，昨年度も大変残念ながら支部総会・懇親会の開催を見送りました。一方で，ゴルフの方は，令和3年11月，田辺カントリー倶楽部において，第42回石原杯争奪ゴルフ大会を不老会コンペと同時開催で実施しております。

京滋支部は母校の地元でもあり，京都府・滋賀県に在住・勤務されている卒業生の方々を中心に，約1,300名の同窓生や恩師の先生方が会員として所属しています。今年度も，収束しない新型コロナウイルス感染症を受け，支部総会・懇親会については通例の11月開催をいったん見送り，改めでの開催に向けタイミングを探っているところでございます。

す。開催できる時期がまいましたら、会員の皆様におかれましては、お近くの同級生・同窓生などお誘い合わせの上ご参加いただき、懇親の場として支部の行事をご活用いただければ幸いに存じます。

さて、京都府におきましては、日本全体が感染防止対策と社会経済活動の両立に向かうなか、この夏には3年ぶりに祇園祭の山鉦巡行が執り行われ、吉田キャンパスから望める大文字をはじめとする五山の送り火が通常通りに点火されるなど、明るい兆しも見られます。

インフラ整備に目を向けますと、新名神高速道路は、残念ながら開通目標年次の遅れが発表されましたが、令和6年度を開通目標としている大津～城陽間などでは大型構造物の工事が目に見えて進んでいます。こうした状況の下、IC近くではアウトレットモールの建設が進むとともに、各所で大きな物流施設や工場の建設に向けた動きが盛んになっています。鉄道についても、JR奈良線の複線化・高速化第2期事業が着実に進み、新たな橋梁架設や各駅の改良などが次々終了し、いよいよ来年春の開業を待つばかりの状況です。

また、京都府、滋賀県の広い範囲が含まれる淀川水系においては、8月に天ヶ瀬ダム再開発事業のトンネル式放流設備の運用が開始され、洪水調節の放流能力の向上が図られるなど、防災・減災に向けた取組が積極的に推進されています。

さらに、関西文化学術研究都市の中核をなす、木津川市と相楽郡精華町にまたがる精華・西木津地区における「スマートけいはんなプロジェクト」は、令和4年度もスマートシティ関連事業に選ばれ、デジタルツインを活用した避難誘導による行動変容検証事業を行っています。これは、まさにコロナ禍と頻発する自然災害が身近に存在する社会で求められることであり、我々学生時代に土木を学んだ者として様々な危機をどのように乗り越えるのか、これからも日々考えながら職務に従事してまいります。

本原稿が掲載される頃には、皆様の「日常」が少しでも取り戻していることをお祈り申し上げ、簡単ではございますが、京滋支部の近況報告とさせていただきます。

## 奈良支部

幹事 (S63, H2) 北 啓 之

年齢順ということで今年度から奈良支部の幹事長を拝命いたしました。微力ながら支部の発展に力を尽くしてまいり所存ですので、皆さまのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、奈良支部では奈良県内の文化遺産の散策会と懇親会を中心とした活動を続けてきました。直近では2019年11月に田原本町で散策会と懇親会を開催し、懇親会では京都大学経営管理大学院山田忠史教授によるミニ講演を実施、田原本町の森章浩町長にもご臨席いただきました。

その後、2020年と2021年は新型コロナの影響で開催を断念しましたが、2022年の夏を迎え、陽性者数こそ未だ多いもののイベントなどの開催については人々の考え方が前向きな方向に変わってきているように思います。

そんな折、京土会事務局より会報原稿の締切り日を知らせる連絡があり、会報のネタ作りと今年度の催しをどうすべきか協議するために幹事が集まることになりました。

世の中を揺るがす大事件から1ヶ月が経過した8月初旬、今なお事件現場で手を合わせる人の姿が絶えない大和西大寺駅近くのお店に都合がついた幹事が集まり、感染対策を万全に実施した上で約3年ぶりの会合を行いました。

まずは今年の散策会と懇親会をどうするかという議題です。参加した幹事のいずれの職場でも陽性者の発生が散見されるものの、現時点でイベントを中止にすべきという意見は出ませんでした。これを受けて、今年の晩秋から初冬の時期の開催を目指して粛々と準備を進めることになりました。開催場所としては県内に数多ある候補地の中から3年ぶりの開催に相応しい場所を選ぶべく、あらためて支部長を交えて協議することとなりました。

さらに、参集した幹事の間で一つの約束をしました。来春の「第16回奈良まほろばソムリエ検定(奈良商工会議所主催)」を有志で受検しようというものです。実は今春、私は検定の2級を取得し、その学習の過程で数十年も暮らしてきた奈良県内にまだまだ知らないことが溢れていることに気付かされました。検定にチャレンジすることを通じて奈良県の良さをあらためて認識し、会員の皆さまにさらに有意義な催しを提供できるのではと考えています。

京土会報が届く年末年始の頃が、ちょうど受検申し込みの時期になります。受検に関する情報交換のために時々集まりましょう、ということになっています。きっと勉強を差し置いてお酒を酌み交わすことになるのだと思いますが、人と直に会って語り合う良いきっかけになるかもしれません。この会合は幹事に限りませんので、興味を持っていた方はぜひ私に連絡をいただきたいと思います。

この記事が皆さまの目に留まる時には、2022年の散策会・懇親会が無事に開催され、奈良まほろばソムリエ検定に向けて話が弾んでいることを願っています。

## 大阪支部

(S60, S62) 渡 瀬 誠

### [支部活動報告]

大阪支部の幹事を務めております。昭和60年卒大阪市建設局長の渡瀬です。大阪支部の近況についてご報告いたします。

大阪支部は、大阪、奈良、和歌山の3府県に在住・在勤の会員約2,400名で構成されております。昨年度の活動といたしましては、支部総会を12月3日に、新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢を鑑み、Web形式により開催

いたしました。なお、今年度の支部総会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、開催方法について決定させていただきたいと考えております。



### 【幹事交代・支部会員の異動】

今年度は、幹事の交代はなく、昭和62年卒のJR西日本の春名様と私、渡瀬が引き続き幹事を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

続きまして、支部会員の主な方々の昨年度総会以降の異動についてご報告いたします。国土交通省近畿地方整備局では、昭和62年卒の東川様が局長にご就任されました。西日本高速道路株式会社では、昭和60年卒の松田様が取締役兼常務執行役員にご就任されました。阪神高速道路株式会社では、昭和56年卒の濱様が取締役兼常務執行役員に、昭和62年卒の奥村様が取締役兼常務執行役員に、昭和57年卒の上松様が常務執行役員に、昭和60年卒の宮口様が執行役員に、昭和61年卒の足立様が技術部長にご就任されました。大阪府では、平成元年卒の尾花様が大阪都市計画局技監に、平成2年卒の美馬様が大阪市建設局理事にご就任されました。

### 【大阪の近況報告】

続きまして、大阪の近況についてご報告いたします。2025年の大阪・関西万博までいよいよ3年を切りました。地元大阪では、万博を成功させるために、さらに万博を契機として、将来の飛躍的な発展のための基盤となるようにインフラ整備を推進しています。

まず、万博会場となる夢洲周辺では、令和4年3月に土地造成工事が完了し、現在、北港テクノポート線の鉄道工事、夢洲内の観光外周道路や高架橋工事など、万博来場者の輸送力増強のための道路や鉄道の整備が着実に進められています。

会場外の内陸部でも、高速道路では、万博開催時のシャトルバスのアクセスルートとなる淀川左岸線(2期)、鉄道では、北大阪急行の延伸区間が工事中であり、万博来場者の円滑な輸送に向けた取り組みが着実に進んでおります。

次に、万博期間中の地域の安全性の確保の取り組みでは、まず、大規模地震・津波への備えとして、堤防、道路橋、鉄道の耐震対策や緊急交通路の無電柱化などを進めています。また、治水事業では、令和4年1月に安威川ダムの堤体

盛立が完了し、これから試験湛水を行い、令和5年度のダム事業完了をめざしています。

また、万博来場者の交流拡大・にぎわい創出を図るため、新たな都市拠点の形成や、魅力的な公共空間の創出に取り組んでいます。まず、うめきた2期区域では、みどりとイノベーションの融合拠点形成に向け、引き続き、新駅設置、JR東海道線支線地下化などの基盤整備や、民間公募の開発事業者による開発が進められています。また、御堂筋では、人中心のストリートをめざし、現在、側道の歩行者空間化を進めています。また、大阪の玄関口であるなんば駅前でも、広場の空間再編に取り組んでいます。

さらに、万博開催後の大阪・関西の成長基盤となる、広域交通インフラ整備を進めています。高速道路ネットワークでは、先ほどの淀川左岸線(2期)とともに大阪都市再生環状道路の一区間をなす淀川左岸線延伸部、鉄道ネットワークでは、なにわ筋線、大阪モノレールの延伸区間の事業が着実に進められています。

新大阪駅周辺地域は、将来、リニア中央新幹線、北陸新幹線の全線開業によるスーパーメガリージョンの形成等により、世界でも有数の広域交通ターミナルのまちづくりが実現することをめざし、現在、国や経済界、民間企業とともにまちづくり方針の検討を進めています。

以上、本日は、万博をキーワードに関連した取り組みをご紹介いたしました。それ以外にも、住民生活、社会経済活動を支える都市インフラの整備や維持管理も確実に進めているところです。

大阪・関西エリアにおいては、土木・建設、まちづくり分野の事業が、ポスト万博事業を含め元気です。東京の方からは、「大阪力」などと表現して頂いているのを耳にいたしております。大阪支部エリアでは、産学官が集結・率先して、様々な課題に対してチャレンジしており、大阪、関西ひいては我が国の成長の一翼を担えるよう活動してまいり所存です。

京土会の皆様方におかれましては、一層のご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

### 神戸支部

支部長 (H1, H3) 竹 林 幹 雄

神戸支部は、兵庫県下に在住・在勤の会員約1,100人で構成されています。例年、秋に神戸市内で、支部総会・現場見学会・講演会を開催し、総会には大学から先生にお越しいただき、交流を深めています。しかし、残念ながら一昨年と同様、昨年もコロナ禍により中止せざるを得ませんでした。

ここで、最近の神戸支部関係のインフラ整備等の状況をご紹介します。

道路関係では、地域発展の基盤となる基幹道路ネットワー

クの整備が進んでいます。大阪湾岸道路西伸部は、海上長大橋の基本構造の詳細検討が実施されるとともに、神戸市長田区駒栄地区での開削トンネルや六甲アイランドの橋脚工事などが進んでいます。北近畿豊岡自動車道は、豊岡空港ICまでが開通し残る区間で事業が進められています。中国横断自動車道姫路鳥取線は、播磨新宮IC～宍粟JCT間が本年3月12日に開通し全線が繋がりました。名神湾岸連絡線、山陰近畿自動車道の竹野道路は、令和3年度に新規事業化され調査設計を推進しています。播磨臨海地域道路は、都市計画・環境影響評価手続きなど、事業化に向けた準備が着々と進んでいます。

港湾関係では、神戸港で国際競争力のある高規格コンテナターミナルの整備、COMPASの試験運用などにより、さらなる機能強化・生産性向上を図り、コンテナ取扱量の回復に向けた取り組みが進んでいます。姫路港で旅客ターミナルエリアのリニューアルや広畑地区の-14m岸壁整備が進んでいます。両港においては、港湾の脱炭素に向けてカーボンニュートラルポート形成計画の検討が進められています。

空港関係では、2025年大阪・関西万博に向けて、関西国際空港の発着枠拡大や、神戸空港の国際化も含めた空港機能のあり方などについて関西3空港懇談会で議論されています。

防災・減災関係では、津波対策は津波防災インフラ整備計画に基づき福良湾口防波堤や新川水門の整備等進められており、治水対策では本年5月28日に利水ダムである千苅ダムを治水活用するための放流設備等の工事が竣工したほか、河川対策アクションプログラムに基づき引原ダムの嵩上げによるダム再生事業等が計画的に推進されています。土砂災害対策は第4次山地防災・土砂災害対策計画に基づき年間77箇所を砂防堰堤を整備する計画です。

まちづくり関係では、都心三宮再整備において、昨年リニューアルされた神戸三宮阪急ビルに引き続き、神戸市役所の旧3号館跡地に中央区役所が移転し、中央区文化センターも併設した形で7月19日にリニューアルオープンしました。東遊園地には建築家の安藤忠雄さんに寄贈いただいた図書館「こども本の森 神戸」も3月25日にオープンしており、さらに魅力的な都市空間が生まれつつあります。

以上が神戸支部をめぐるインフラ等の整備の現状です。

この会報が届く頃にはコロナのまん延状態が一息つき、以前のような活動を末永く続けていきたいと願っております。

最後に、支部会員の益々のご活躍と京土会の発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動への引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。

## 岡山支部

幹事長 (S61) 長尾俊彦

岡山県では、倉敷市真備町を中心に甚大な浸水被害が発生した平成30年7月豪雨から、4年が経過いたしました。発災以来、皆様からのご支援をいただきながら、復旧・復興の歩みを進めてまいりました。おかげをもちまして、被災した道路や河川の原形復旧は全て完了し、現在、国直轄事業であります小田川の合流点付替工事を、急ピッチで進んでいるところです。また、小田川3支川と称される、末政川、高馬川、真谷川や、堤防の決壊により市街地の浸水が発生した岡山市の砂川につきましても、県施行の河川激甚災害対策事業により、堤防の嵩上げ等の改良復旧を全力で進めているところです。道路につきましても、長年の懸案でありました、慢性的な渋滞の発生している国道2号岡山倉敷間において、交差点の立体化を進める岡山倉敷立体（I期）を事業化していただきました。岡山市、倉敷市などの都市圏の交通円滑化に大きな効果がある事業として、早期整備に期待が高まっております。また、地域高規格道路美作岡山道路では、未整備の全区間で、県と岡山市が手分けして整備に取り組んでおり、特に英田IC～湯郷温泉ICでは、橋梁等の工事が進み、高規格道路の姿が徐々に見えてきているところです。港湾につきましても、水島地区と玉島地区を結ぶ航路整備など、水島港の国際バルク戦略港湾としての機能強化を着実に推進いただいております。さらに、背後に水島工業地帯を擁したメリットを生かし、カーボンニュートラルポート（CNP）とカーボンニュートラルコンビナート（CNK）の連携した取組も進めていくこととしております。引き続き、皆様のご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、岡山県では、今年度、瀬戸内国際芸術祭2022と岡山ディステーションキャンペーン2022という、二つの大型観光イベントが開催されました。5回目を迎える瀬戸内国際芸術祭は、美しい瀬戸内海の島々を巡りながら、気鋭のアーティストの作品を楽しむことができる、国内・外から注目を集める芸術イベントであり、休日のもとより平日も、多くの方々に瀬戸内の大・小の島々においていただきました。また、岡山ディステーションキャンペーン2022は、「こころ晴ればれおかやまの旅」をキャッチコピーに、岡山ならではの歴史や文化に触れる体験ツアーや、白桃やマスカットなどのフルーツ、おいしい地酒を堪能いただけるイベントなどを開催し、県内各地域において、心をこめたおもてなしと活発な交流が展開されました。全国のJRの駅で「こころなついる岡山」という、5枚組の観光ポスターを目にされた方もおいでではないでしょうか。これらのイベントをきっかけに、「晴れの国おかやま」の魅力発信の輪が、大きく広がっていくことを願っているところです。

岡山支部の近況ですが、会員数は60～70人で推移しております。今年度の会員の異動につきましては、富田貴敏氏(H9

院)が国土交通省岡山国道事務所長から、西日本高速道路株式会社に復帰され、人事部人事担当課長に就任されました。県関係では、前河川課長の二摩慎一氏(S60)が、県を勇退され、新たな活躍の場で力を発揮されることになりました。また、岡山大学では永禮英明氏(H13博士)が学術研究院環境生命科学学域教授に就任されておいでです。

岡山支部では、毎年、春に前期、秋に後期の、2回の懇親会を開催しております。残念ながら、一昨年から本年前期までは、新型コロナウイルスの影響で開催を断念しておりましたが、この会報がお手元に届く頃には、本年後期の懇親会を開催し、しばらくお目にかかることができなかつた皆さんとの再会を、笑顔で報告できるものと信じております。懇親会には、県外からのご参加も大歓迎です。是非、「晴れの国おかやま」に足をお運びいただければと存じます。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご活躍と京土会のご発展をお祈り申し上げますとともに、支部活動へのご支援をお願いし、岡山支部からの近況報告とさせていただきます。

## 広島支部

(H8, H10) 荻野正博

広島支部の近況をご報告します。

支部会員数は現在92名で、異動・転出などにより、昨年より減少となりました。

今年度の支部総会は、昨年度同様、コロナ禍の情勢を考慮し開催を延期しております。総会も広島支部からはオンラインでの参加となり、年に一度、支部会員が一堂に会するメインイベントに直接参加できなかったことは非常に残念でなりません。全国で同様の状況と思われませんが、今後情勢が落ち着いて、通常通り支部総会を開催できるようになることを切に願うばかりです。

なお、今年度の本部評議員と支部役員については、本部評議員を佛原肇様(S53)、福原真爾様(S54)、支部長を井上徳宣様(S52)、副支部長を楠橋康広様(S58)、幹事長を吉川克明様(H7)、幹事を合田尚義様(H3)、荻野正博(H8)、家島大輔様(H9)、橋本涼太様(H24)、二宮智大様(H26)に務めていただくことになっております。

さて、最近の広島県の状況でございますが、インフラ整備では広域交流・連携基盤の強化に向けた大規模プロジェクトとして一般国道2号のバイパス事業等が進められており、今年度中に一般国道2号東広島・安芸バイパスが開通予定となっております。また、広島駅南口広場の再整備等が行われており、令和7年春完成予定の駅ビルの建替えや路面電車のルートの新設などによる陸の玄関にふさわしいまちづくりが進められています。

また、広島県において戦後最大級の災害となった平成30年7月豪雨災害からの復旧が着実に進められている中、昨年7月、8月と立て続けに豪雨災害が発生しましたが、引き

続き、一日も早い復旧・復興に向けて、被災地の早期復旧と改良復旧事業などの再度災害防止対策等が取り組まれています。

その他の状況といたしましては、サンフレッチェ広島に関連し、令和6年の開業に向けて新サッカースタジアムの建設が進んでいます。また、来年5月に主要国首脳会議(G7サミット)が広島で開催されることが決まり、G7の首脳等に被爆の実相や平和への思いを共有していただき、平和の象徴としての広島を世界に発信できるよう、官民一体となって準備が進められているところです。

最後に、京土会会員の皆様方の益々のご活躍と京土会のご発展をお祈りするとともに、支部活動へのご支援をお願いし、近況報告とさせていただきます。

## 山口支部

幹事長(H9, H11, H14) 中島伸一郎

山口支部は、山口県に住所あるいは勤務地のある同窓生を会員とし、現在約40名の会員からなっています。会員の転入出が比較的少なく、メンバーがほぼ固定していることもあって、会員どうしの親密な関係が築かれています。会員の約4分の1は定年退職された先輩方で、悠々自適の生活を送られたり、あるいは今も現場の第一線で活躍されています。あとは県庁関係者が約4分の1、山口大学など教育機関が約4分の1、民間企業や研究所が約4分の1となっています。

当支部では、1～2年に1回懇親会を開催しており、会員間の交流および情報交換の貴重な場となってきました。この2年ほどは、残念ながら集まっていませんが、最近では、コロナの波の合間を縫って、そろそろ懇親会を開催できると、タイミングを見計らっているうちに、次の波が来てしまうという、長縄跳びの下手な子供のような状態に陥っています。次のチャンスにはぜひ開催したいと思っておりますので、会員のみなさま、どうぞよろしく願いいたします。

## 四国支部

支部長(S52) 末澤 等

四国支部は四国4県(徳島、高知、愛媛、香川)に居住または勤務する京土会会員で構成されています。近年の会員数は140名前後で推移しており、2022年6月現在、134名となっています。

四国支部では、例年5月後半の土曜日に支部総会を開催して、支部会員の懇親を深めていますが、2022年度についても2021年度と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため、総会をWebにて規模を縮小して開催しました。

例年の支部総会(対面開催)では、まず、事務局から四国支部の活動状況が報告され、ご臨席を賜った先生方から

本学の近況をご紹介いただいた後に、懇親会に移り、世代を超えて懇親を深めます。最後に、参加者全員がお互いに肩を組み合せて「琵琶湖周航の歌」を大合唱し、参加者の団結を固めた後、京土会四国支部の発展を祈念して万歳三唱を行っております。

新型コロナウイルスの感染拡大が沈静化し、来年度は対面での総会が開催できることを祈るばかりです。

近年、四国支部総会への参加者数が40名を下回っていることから、今後も引き続き活性化に取り組み、会員同士の懇親を深めるための場である支部総会を盛り上げていきたいと考えています。

四国支部会員の皆さまには支部総会への積極的参加などのご支援を頂くとともに、四国外の皆さまには四国に勤務する機会等がございましたら、四国支部総会にご参加下さいますよう、宜しく願いいたします。



## 北九州支部

幹事 (H21, H23) 福田 尚 倫

今年7月、小倉の街は3年ぶりに祇園太鼓が鳴りわたり、コロナ第7波を超えて、北九州の風物詩が甦った感じがする。しかし、コロナ感染の拡大は続き、この影響を避けるために、今年の支部定例会（対面会議）は取りやめ、会員23名、紙上短信により各員の近況を聞くことにした。

北九州の土木プロジェクトの動きを2つ報告する。

(その1) 北九州空港は周防灘の海上空港で、2006年に24時間空港として開港した。その後、アジア・北米等の長距離貨物空港としての利用が高まり、滑走路の早期延長の要望がなされている。現滑走路は2,500m。これを南に500m延長し3,000mにする計画（大阪航空局・九州地方整備局）である。現在、PI（パブリック・インボルブメント）で推進合意を得て、環境影響評価の手続きを進め、約4年の整備工程を見込んでいる。

(その2) 下関・北九州道路は、対岸同士の北九州・下関両都市圏を一体化し、円滑な都市活動を確保するために整備する。その区間は、北九州市小倉北区西港から関門海峡（約2.2km）を跨ぎ下関市彦島に至る約8km。海峡部は構造検討の結果、橋梁型式が選定された。

現在、当道路事業を促進するために、都市計画決定のための環境影響評価の作業が進んでいる。この路線は、国（九

州・中国両整備局）・福岡山口両県・北九州下関両市の6者で協議がなされており、今後、事業主体・財源構成など具体策が検討されていく。

## 支部会員短信

藤井 崇弘 (S34, S36)

過ぎし日、昭36年から建設省時代に「九州縦貫道（門司一鹿兒島・宮崎）の現地踏査、本四ルートの実施計画と着工、関東での東京外環道路の事業促進」、昭61年から宮城県での「仙台市の政令指定都市移行」など、今、自身の土木行政の歩みを顧みている。少年老い易く、自分も88歳になった。幸い、コロナ感染の発熱もなく、国交省のOB会などに顔を出している。

故 藤田 哲夫 (S36, S38)

元支部長の藤田氏が、令和3年12月に病のため逝去されました。謹んでお知らせします。 福田幹事

垂水 國博 (S49, S51)

幸か不幸かまだ仕事を続けています。約40年の社長業で、他人からみるとドンと構えたベテラン社長に見えると思いますが、生来の心配性は相変わらずで、色々な事に一喜一憂する毎日です。

プライベートでは、海外旅行は諦め、九州圏内の温泉湯治旅行を計画しています。

垣迫 裕俊 支部長 (S52)

令和4年3月をもって45年にわたった常勤仕事が終わった。最後の学生相手の仕事は楽しかったが、大学教員の忙しさを実感した。今年度は非常勤の仕事をいくつか引き受けているが、心の中での場面転換が意外に大変。市内に住む孫4人が遊びに来るのが楽しみだが、食事の用意をする妻が悲鳴をあげている。

森川 真一 (S54, S56)

昨年3月末に65歳で市役所を卒業し、設計コンサルタントに就職。体力も知力も衰えを感じますが、仕事を持って、また読書やランニングなど趣味も頑張っており、老化に抵抗しています。コロナに負けじと、完走できないかもしれないけれど、来年2月には北九州マラソンを走ろうと走りこんでいます。

稲原 浩 (H4, H6)

6月下旬から北九州市役所に勤務しております。稲原です。平成6年に総務省（自治省）に入省し、今回が4回目の地方公共団体での勤務となります。北九州市の多様性・多面性を上手く生かした地方行政に少しでも貢献したいと考えています。

## 吹中 範生 (H4, H6)

本年6月より長年関わった廃棄物関連からバイオマス発電関連の業務に従事しています。長男も4月に就職。長女は大学院生で下宿中。家内と猫二匹で暮らしています。

## 高田 純一 (H8, H10)

廃棄物発電プラントメーカーにて技術開発をしている。最近ゴルフをする機会が多く、昨年購入したドライバーの調子がようやく上がってきた。あとはグリーン周りでのモタモタをどう解消していくかというのが一番の技術課題である。

## 真名子 一隆 (H10, H12)

廃棄物発電プラントメーカーにて、海外、脱炭素関連のプロジェクト業務に携わっています。そろそろコロナ渦が収束して、普通に海外出張ができるようになる日常を心待ちにしています。

## 谷垣 信宏 (H11, H13)

廃棄物発電プラントメーカーにて、廃棄物発電設備のプロジェクトリーダーを担当しています。単身赴任ですが、できる限り週末は自宅に戻り、子供の勉強を見たりしています。

## 津守 嘉彦 (H15)

昨年度より港湾施設の点検や補修計画の立案等の業務をしております。近所を散歩するようになりました。ゆっくり歩くことで普段何気なく通っていた道もいろいろと変化していることに気づかされます。

## 柏原 友 (H15, H17)

廃棄物発電プラントメーカーにて、海外案件・脱炭素案件に関する業務に携わっています。今年5年ぶりに日本に帰国し、休日は庭いじり・土いじりを楽しんでいます。

## 福田 尚倫 (H21, H23)

廃棄物発電プラントメーカーにて、技術開発、業界団体活動を中心とした業務に携わっています。休日は5歳の息子のサッカー練習と英語レッスンに力を入れて取り組んでいます。

## 土谷 悠真 (H31, R3)

廃棄物発電プラントメーカーに勤務して2年目になり、福島県の事業所に赴任となりました。現場でプラントの操業を学びつつ、滅多にない機会なので東北を満喫しようと思えます。

## 福岡支部

幹事 (H21, H23) 長野 航兵

福岡支部は、北九州を除く九州全域に在住・在勤の京土会会員によって構成されており、会員相互の親睦を深めています。支部では毎年6月頃に総会を開催していましたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大変残念ではありますが、今年も中止する運びとなりました。次回総会こそは対面で開催できるよう、新型コロナウイルスの早い終息を切に願うばかりです。

さて、九州の最近の話題を紹介させていただきます。

道路関係としましては、熊本県の嘉島JCTと宮崎県の延岡JCTを結ぶ九州中央自動車道において、2021年8月21日に高千穂日之影道路の一部区間である日之影深角IC～平底交差点間（延長2.3km）が開通、2022年度には矢部清和道路の矢部IC～清和IC間（延長10.3km）が新規事業化される等、全線開通に向け進捗しています。全線開通後は、災害時のネットワーク確保や沿線地域の企業進出促進、救急医療活動の支援や観光活動等が期待されます。

河川関係としましては、白川沿川の洪水被害を防ぐことを目的とした洪水調節専用ダム（流水型ダム）として建設中の立野ダムにおいて、2022年6月にダム堤体の全体コンクリート約36万㎡のうち20万㎡に到達しました。工事進捗を間近で見学するダム見学会を開催する等、事業への理解を深めて頂くための取組みも実施されています。

電力関係としましては、熊本県にある黒川第一発電所の復旧工事を開始しました。2016年4月の熊本地震により甚大な被害を受けましたが、その後、評価委員会で復旧可能との評価を受け、2021年10月から準備工事を実施、2022年4月21日より、安全を最優先に、水圧管路トンネルの掘削、発電所の撤去・新設等の復旧工事が開始されています。

鉄道関係としましては、西九州新幹線・武雄温泉～長崎間が2022年9月23日に開業することが発表されました。所要時間が30分短縮され、博多～長崎間を最速1時間20分、新大阪～長崎間を最速3時間59分で結びます。開業により、西九州地区の振興と発展に大きく寄与することが期待されます。

開発関係としましては、三井不動産(株)、九州電力(株)、西日本鉄道(株)が福岡市青果市場跡地において事業を推進する「三井ショッピングパーク ららぽーと福岡」が2022年4月25日にグランドオープンしました。九州初進出の「ららぽーと」となる本施設は、出会いを生み出す多彩な“パーク（広場）”をはじめとして、活気あふれる空間を施設全体に創出し、福岡市における新たな拠点として魅力的なまちづくりに貢献することを目指しています。

最後になりましたが、京土会の皆さまの益々のご活躍と京土会の更なる発展をお祈り申し上げるとともに、福岡支部会員の皆さまにおかれましては、今後とも支部活動へのご協力を宜しくお願いいたします。

## 椿の会（京土会女性支部）

(H2, H4, H8) 島田 洋子

椿の会は、京土会女性会員のネットワーク構築を目的に2017年に発足しました。京土会の支援のもと、2019年からは支部として活動をしています。発足当初から、卒業生と在学生の交流、卒業生同士の交流、および在学生のキャリア支援を目的として、交流会を年1回開催しています。交流会は、2019年までは、桂キャンパスで、卒業生によるキャリアや働き方についての講演会とお茶とお菓子をつまみながら在学生在が進路や就職について質問や相談ができる茶話会の形で実施してきました。毎年の参加者は30名程度で多くはありませんが、参加者からは好意的な感想をいただき、回を重ねるにつれて着実に会の知名度も上がってきていました。

ところが、2020年春以降の新型コロナウイルスの感染拡大により2020年の交流会は初めてオンラインでの開催となりました。コロナ禍は2年目に入っても収束せず、2021年の交流会も対面での開催はあきらめ、12月11日(土)の午後にオンラインで開催しました。参加者は卒業生17名、在学生5人（学部4回生3名、修士1回生1名、研究生1名）の合計22名でした。

当日は、清野会長のご挨拶に続いて卒業生が自己紹介し、その後、3、4名のグループに分かれてフリーディスカッションを実施しました。1回のディスカッションを10分程度として、何度かグループ分けをシャッフルしてフリーディスカッションをしました。今回参加した在在学生にとっては、様々な業界で活躍している卒業生と気軽に話せて、貴重な体験となったようです。卒業生同士の会話もはずみました。対面で実施した場合には子育て中の方や海外在住のために京都に足を運ぶことが難しい卒業生も、オンラインだと気軽に参加できるというメリットがあります。今回、オンラインで実施したことで、ご高齢で遠方にお住まいの私たちにとっては大先輩にあたる卒業生の方にも参加いただけました。後日実施したアンケートでは、今後の開催方法については、約5割の方が対面とオンラインの併用を希望されていたので、今後、コロナの状況を見ながら、対面とオンラインの両方のメリットを生かした交流会の実施を模索していきたいと考えています。

